

### 平成26年度 運営協議会委員

- 会 長/木村 文 (緑町二丁目三番地域住民協議会)
- 副 会 長/狩野 耕一郎(緑町三丁目町会)
- 会 計/早川 峻 (北町五丁目町会)
- 会 計/千綿 澄子 (緑町二丁目三番地域住民協議会)
- 会計監査/藻谷 征子 (緑町三丁目町会)
- 高橋 豊 (北町五丁目町会)
- 島森 和子 (北町五丁目町会)
- 和田 善一郎(緑町三丁目町会)
- 興梠 信子(緑町二丁目三番地域住民協議会)
- 木村 浩 (環境部参事)
- 和地 稔 (クリーンセンター所長)

### 運営協議会という木を育てよう

クリーンセンター運営協議会会長 木村 文

この8月で、運営協議会の会議は200回を迎えました。約2ヶ月に1回も会議を行う協議会は、全国でも珍しく、今までさまざまな問題を話し合い、乗り越えてきました。

運営協議会に参加する団体には、地域の安全を守る権利とともに、それなりの義務があります。行政に文句や苦情を言うだけではなく、きちんと議論するための努力が必要です。会議では難しい専門的な内容もたくさんあります。話し合いや視察、催しを重ねながら、地域の市民や市の職員も一緒に学習してきたと感じています。運営協議会での長年の活動の積み重ねは、地域のつながりをつくり、まちづくりにも貢献しています。まるで枝葉を広げた一本の樹木のように。この木を大事に育て、成長していきたいと願っています。

### ●平成25年度 運営協議会決算

単位=円

収 入		支 出	
市補助金	1,000,000	事務費	7,239
その他の収入	69,111	広報費	292,800
前年度繰越金	406,552	事業費	752,525
		会議費	0
		備品費	57,750
		交際費	0
		予備費	5,000
計	1,475,663	計	1,115,314
次年度繰越金			360,349

### ●平成26年度 運営協議会予算

単位=円

収 入		支 出	
市補助金	1,000,000	事務費	10,000
その他の収入	60,000	広報費	443,760
前年度繰越金	360,349	事業費	920,000
		会議費	20,000
		備品費	10,000
		交際費	5,000
		予備費	11,589
計	1,420,349	計	1,420,349

### ●平成26年度 運営協議会事業計画

1. 運営協議会会議 (4・5・8・10・12・2月)
2. イベント (10月12日)
3. 「運営協議会だより」発行 (5・8・12・3月)
4. バス研修会 (11月22日)
5. 運協委員視察研修
6. 理事者との意見交換会 (12月)
7. 環境健康診断 (2~3月)

### ●クリーンセンターの人事異動

平成26年4月1日付

名 前	新	旧
石塚 亮	環境部クリーンセンター主任	財務部施設課主事

### エコなお料理レシピ 暑い夏に、簡単・省エネ・ヘルシー料理!

#### \*たたききゅうりの味ぼんず漬

- 材料 きゅうり3本、味ぼん酢1カップ、ラー油大さじ1、ニンニク1片(薄切り)、粗挽きこしょう少々
- 作り方 ①きゅうりは両端を切り取る。まな板の上で、すりこぎ棒でたたきヒビを入れ、手で一口大にちぎる。②ボールに味ぼん酢、ラー油、ニンニク、こしょうを加え、かき混ぜる。③②に①を入れて混ぜる。
- ★30分で食べられます。冷蔵庫で1~2日おくと、味が染み込んでおいしいです。

ボールがすすみそう



#### \*小松菜とじゃこのサラダ

- 材料 小松菜一把、ちりめんじゃこ・カットワカメ適量
- 作り方 ①小松菜を2~3cmに切る(葉は縦にも切れ目を入れて細く)。②ザルに、切った小松菜、ちりめんじゃこ、カットワカメを入れ、沸かした熱湯をかける。熱湯は1~2回かける。③水気をよく切る。
- ★和風ドレッシングをかけてどうぞ。

火を使わないのがうれしい



### \*編集後記\*

最近、「おもちゃのかえっこ」を考案した藤浩志さん、コミュニケーションを生む新しい学びの場のデザインに取り組む大月ヒロ子さんのお話を伺う機会があり、クリエイティブリユースについて知った。ごみの可能性にちょっとわくわく。以来、ごみが捨てづらく困っている。(木村 文)

編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会

〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5 武蔵野クリーンセンター内  
電話: 0422-54-1221

●武蔵野市ホームページ

<http://www.city.musashino.lg.jp/>

\*この広報は、再生紙を使用しています。

# 武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 58

### CONTENTS

- P1... 工事協定書が結ばれました
- P2... 第5期廃棄物に関する市民会議 市のごみ対策を現状に合わせて改定
- P3... 藤の木の引っ越し/クリーンセンターと私③
- P4... 活動報告/エコなお料理レシピ/他

### 武蔵野クリーンセンター運営協議会とは

1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された周辺住民3団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

### 周辺住民の安全の確保、生活環境の保全を守る

## 工事協定書が結ばれました

昨年11月初旬に周辺地域で工事説明会が行われた後、およそ5ヶ月の準備工事を経て、4月14日に起工式が行われました。

その後、クリーンセンター周辺の住民団体(緑町三丁目町会、吉祥寺北町五丁目町会、武蔵野緑町パークタウン自治会、武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会)と武蔵野市、工事業業者(荏原環境プラント株式会社、鹿島建設株式会社)の7者により、平成26年5月20日付で工事協定書が締結されました。

工事協定書は、周辺住民の安全確保や公害の防止、生活環境の保全などを目的として、作業時間や車両の運行、公害対策の他、必要な事項を定めています。周辺住民は安全で安心な工事を願っています。今後協定書に定めたこと以外にも、必要に応じて周辺住民と協議することになりました。

工事協定書が結ばれた後、5月26日から本工事が始まりました。

### 工事中 NOW

工事の様子を毎号お知らせします。  
2014.5 本工事が始まりました

まず、新工場棟の山留工事。建物の基礎を築くため、土を掘り下げます。周囲の土砂が崩れないように矢板という壁をつくった後、地下を掘り、不要な土を取り除く工事が1月まで行われます。煙突の改修工事は9月から始まります。

矢板を立てる杭打ち作業



\*工事の進行状況は、クリーンセンターのホームページでもご覧いただけます。



# 第5期 廃棄物に関する市民会議 市のごみ対策を現状に合わせて改定

## 廃棄物に関する市民会議(ごみ市民会議)とは？

廃棄物に関する市民会議(通称ごみ市民会議)は、循環型社会の推進に向けて、ごみの発生・排出の抑制、資源化の推進などについて、市民、事業者、行政が取り組むべき新しい基本方針・計画目標や施策などを検討する会議です。

平成8年に第一期会議が発足して以来、ごみ市民会議の答申を元に武蔵野市の一般廃棄物処理基本計画など、ごみ処理の施策がつけられてきました。

## 第5期廃棄物に関する市民会議の役割

第5期の会議では、武蔵野市一般廃棄物処理基本計画(平成20年～29年度)の今までの実績をふりかえり、社会的状況の変化に合わせて改定を検討します。メンバーは、学識経験者・市民・事業者・市により構成されています(右表)。クリーンセンター運営協議会は、会議発足時から市民団体として参加しており、今期は狩野耕一郎さんが運営協議会を代表して参加しています。

## 最大の課題はごみ減量

武蔵野市では、ごみと資源ごみを合わせた総量が毎年減少してきています。しかし、市民1人が1日に出すごみの排出量は、多摩地域の自治体の平均614gより多い、676g(平成25年度)で、多摩26市の中でもワースト5に入っています。

また、現在進められている新クリーンセンターの建設では、平成19年当時に将来のごみの総量を計算で割り出した計画ごみ量を元に設計されています。現在の工場の1日のごみ処理能力は最大195tですが、新工場の処理能力はごみの減量を前提にした120tで設計されています。

平成25年度の調査によると、焼却処理するごみの8割は燃やすごみ、2割弱は資源化できる紙類やプラスチック容器などで、まだごみの減量・資源化の余地があると考えられています。

## 第5期 廃棄物に関する市民会議の構成

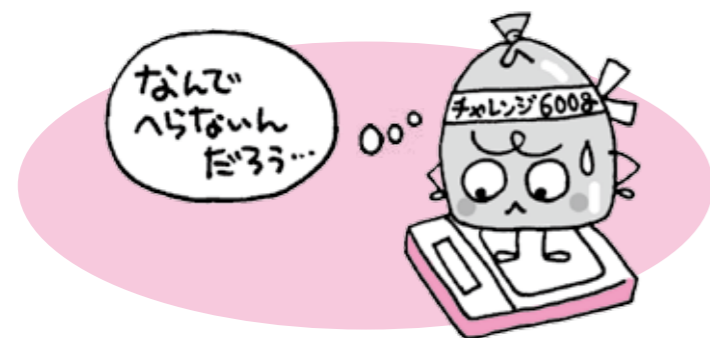
	名前(所属団体)
学識経験者	山谷 修作(東洋大学)=委員長
	田口 誠(成蹊大学)=副委員長
事業者	中里 陽一(東急百貨店吉祥寺店)
	加藤 慎次郎(加藤商事)
	花俣 延博(武蔵野市商店会連合会)
	古川 浩二(いなげや)
市民団体	西上原 節子(ごみ減量協議会会長)
	竹下 登(同副会長)
	石川 洋一(クリーンむさしのを推進する会推薦)
	能勢 方子(コミュニティ研究連絡会推薦)
	狩野 耕一郎(クリーンセンター運営協議会推薦)
公募委員	阿部 迪子、迫田 洋平、岡内 歩美
市職員	木村 浩(環境部 参事)
事務局	大野課長、齋藤副参事、柏倉課長補佐、他(ごみ総合対策課)

## さまざまなごみの排出実態調査を実施

なぜ武蔵野市のごみが多いのか、その理由は、「吉祥寺地区に店舗など小規模の事業者が多いため、ごみの総量が多くなる」「一般的に単身世帯は複数世帯より1人当たりのごみは多いといわれているが、武蔵野市は単身世帯の比率が50%と高く(全国の平均32.4%：平成22年度国勢調査)、これに伴ってごみ量が多くなる」と推測されてきましたが、それが本当なのか、ごみ排出実態調査を実施し、分析しています。

武蔵野市は、平成22年5月に「セカンドステージ！武蔵野ごみチャレンジ600グラム」を宣言しました。この目標の達成を目指して、上記の推測を検証するとともに実効性のある減量施策をたてるために、武蔵野市は平成25年5月～26年3月にかけて、家庭ごみや事業所ごみの計量や市民の意向調査など、さまざまなごみの排出実態調査を行いました。

ごみ市民会議では、この実態調査を多角的に分析しながら審議をしています。月一回の会議を行い、12月には中間報告、来年3月に最終答申を出す予定です。



## 藤の木の引っ越し



平成22年に開催された「むさしのエコフェスタ」では、藤棚の下に足湯を設置して、大勢の市民が憩いました。



取り木した苗



種から育てた苗



負担をかけないように全体を小さくして、ていねいに根っこを保護する。



農業ふれあい公園に移植された藤



「藤の育て方講座」の開催と苗の配布

クリーンセンター敷地内にあった藤が、2月に農業ふれあい公園(関前5丁目19番)に移植されました。この藤は樹齢60年を超える老木ですが、毎年見事な花をつけ、周辺住民に愛されてきました。新クリーンセンター建設に伴って撤去することになり、周辺住民から伐採を惜しむ声が集まりました。老木なので現状どおりでは残せないものの、枝葉を整理して市内の公園に移植が実現しました。いつの日かまたみごとな花を咲かせてほしいですね。クリーンセンターでは、この他に移植種や苗を育てて命をつなぎ、「藤の育て方講座」を開いて、希望する市民に藤の苗を配布しました。

クリーンセンターをめぐり地域の方々の思いを連載しています。今回は、武蔵野緑町団地時代から自治会幹事として、団地建て替えを経験する中で、自治会を通して周辺のまちづくりなどで広く活動されてきた興梠信子さんです。

## クリーンセンターと私③ 住民参加の基礎は自治会活動にあり

武蔵野緑町パークタウン自治会 興梠信子

### 自治会の大きな2つの決断

昭和59年、現在のクリーンセンターが稼働し、緑町団地自治会を含む周辺3団体による運営協議会が発足しました。それから30年がたちました。

緑町団地自治会は、現在のクリーンセンター建設にあたって2つの重要な決断をすることになりました。昭和56年、団地に隣接した市営グラウンドを建設用地とすることについて、周辺住民としての同意が求められた自治会は、全戸アンケートを実施し、その結果に基づいて同意することを決定しました。「周辺への環境について最大限の配慮」が条件でした。この条件は、その後協定書に反映されることになりました。

もう1つの決断は、行政が周辺3団体に「迷惑料」として2000万円の支払いを提示したことです。この2000万円問題はマスコミも注目し、テレビや新聞が取り上げました。自治会は態度を保留し、重要な問題として夏の暑い日に臨時総会を開きました。結果として自治会は「迷惑料は受けとらない。今後のクリーンセンターの安全と環境を守ることが

大切」との結論を出しました。ダイオキシン類対策、プラスチック焼却、環境健康診断など、その後のさまざまな問題の対応を考えても、この判断は間違っていなかったと思います。

その後は、運営協議会に自治会から委員を送り出し、毎月の幹事会・号棟委員会で必ず報告を行い、他市からのごみの搬入、ダイオキシン問題の対応、ごみ有料化、新クリーンセンター建設問題など、その都度重要なできごとを自治会で議論してきました。

### まちの課題をみんなで考えること

武蔵野市との「パートナーシップ」「住民参加」と言われますが、私たちにとってはその基礎が自治会活動にあります。住むまちの課題についてみんなで一緒に考え行動し立ち向かうことです。この姿勢は、その後の団地建替事業において、当時の住宅都市整備公団、武蔵野市との関係でも発揮されました。

新クリーンセンター建設と今後のごみ減量など、どうしたら市民全体で共有できるのかがいま一番の課題だと思っています。